

苫小牧市長 金澤 俊 様

苫小牧腎友会要望書

苫小牧市におかれましては、日頃より苫小牧腎友会の活動
にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

我々、人工透析患者が、より人間らしく生きる環境を整える
ために、3つの項目を請願します。市長さまと関係者の皆さ
ま、市民の皆さまに、更なるご理解を得るための努力をして参
りたいと存じますので、検討のほど、宜しくお願い致します。

要望項目

① 多様な通院補助の維持について

2014 年度から始まりました、自家用車による通院補助は、透析患者の通院の多様性や実態に対応しているものです。また、今年度から通院補助額が 9,000 円から 1 万円に引き上げられました。昨今の物価高騰の事情に併せて支給額を増額して頂いた事について、心より感謝申し上げます。今後も、本制度を維持して頂くこと、および、本制度を知らない対象者への広報のあり方について検討いただきたく存じます。

② 次世代の腎移植医療に向けた取り組みについて

臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段ですが、北海道では 591 人の腎臓移植希望者(令和 7 年度臓器移植ネットワーク公表データ)が待機しています。今年に入ってから 10 月までの腎臓移植手術の実績は 3 件でした。全国と比べ、移植件数が少ないことに加え、北海道の待機人数は他の都道府県に比べ多いため、移植実施までの待機年数が平均 20 年以上と、たいへん長い状況が続いています。一方で、iPS 細胞による再生医療は、我々が透析から免れる有力な手段のひとつであることから、苫小牧腎友会としては、今後も京都大学の iPS 細胞研究を応援し続

ける所存です。苫小牧市におかれましても、研究活動を下支えするような広報活動をお願いしたく存じます。

③ 災害時の透析医療の維持について

苫小牧市の福祉のまちづくり条例第 11 条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後も本活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。また、私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、1 回の透析につき 1 人あたり 120L と大量の水が必要です。災害対策に関する市内の透析施設の代表者による会議の実施結果について、事例がありましたら、情報公開をして頂けますよう、お願い致します。また、会議を開催する予定がございましたら、腎友会役員を同席させて頂きたく存じます。

令和 7 年 1 2 月 5 日



苫小牧腎友会 会長 工藤彰洋